

[nozaki_52]

活動タイトル	シリーズ「気候変動」2025 第5回 春と秋が消える！二季化について 今年の秋の期間と冬の訪れを振り返り、「二季化」について考えます。また、各国の温暖化防止の取り組みについても報告します。
実施日	令和7年12月20日（土）
場所	苫小牧市
対象数	5名

内容

第5回目は、今秋の期間と冬の訪れを振り返り、「二季化」について考えました。また、各国の温暖化防止の取り組みについても報告しました。

前回の振り返りで、10月は初旬になっても暑さの名残がある一方で、下旬には12月上旬頃の寒さになりました。11月は、平年より気温が低く12月から真冬並みの寒さが到来するなど、一気に寒さが到来しました。12月は、昨年には見られなかった降雪があり、除雪も2回程あった一方で季節外れの雨が降るなど、気温の寒暖差が激しかった月でした。

結果として、秋の期間は例年より極端に少なく、例年どおりの冬を迎えた感があります。二季化の研究では、夏の期間が延長するものの、冬の期間はほとんど変わらないために、春と秋の時期が短くなっていると公表していますが、四季の変化が明瞭であることが特色である日本の姿が変わってきているのが浮き彫りになっています。

また、11月に開催された「COP30」の成果について解説。アメリカが不参加で、各国の利害などでパリ協定の約束が果たされていない現状にあることも説明しました。